# 総胆汁酸:ペギー編





**症例** ペギー、9ヵ月齢、未避妊雌、ラブラドールレトリバー

主訴と経過 排尿困難と尿失禁のため来院

飼い主はペギーの穏やかな性格が気に入り、生後10週齢の時に家族に迎え入れた。ペギーはすぐに新しい家庭に慣れ、しつけを覚えるのも早か

った。これまでにすべてのワクチン接種が完了しており、ノミ・ダニおよび犬糸状虫症の予防投薬を受けていた。食事は市販の大型犬種向け子犬用フードを食べていた。飼い主は最近、ペギーのトイレの失敗や排尿がし辛そうな感じが気にかかっていた。

**身体検査** 子犬のラブラドールレトリバーにしては大人しい性格だが、 反応はしっかりしていた。体温、心拍、呼吸数は正常であった。年齢や 犬種の割にやや小柄な体格をしているものの、ボディコンディション スコアは正常であった。その他の身体検査に異常は認められなかった。

# イニシャルプランニング

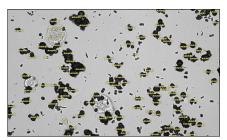
尿検査として、尿比重の測定、IDEXX ベットラボ ® UA™ による尿の化学的性状評価、IDEXXセディビューDx® による尿沈渣評価を実施することにした。

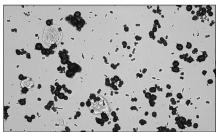
# スクリーニング検査の結果

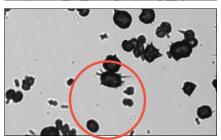
気になる尿検査の結果として、尿酸アンモニウム結晶(>50/HPF)と 尿蛋白(30 mg/dL)が検出された。

尿酸アンモニウム結晶は、肝機能障害を伴う先天性または後天性の門脈血管異常の犬によく見られ、一部の犬種では遺伝性の尿酸代謝異常の結果として現れることも知られている'。

尿比重は1.037であり、濃縮能は十分に保たれていた。尿沈渣には少数の赤血球と白血球が検出されたが、細菌は検出されなかった。







動物用管理医療機器 その他の内臓機能検査用器具 IDEXX\_ベットラボ\_UA 動物用一般医療機器 尿化学分析装置 IDEXX\_セディビューDx

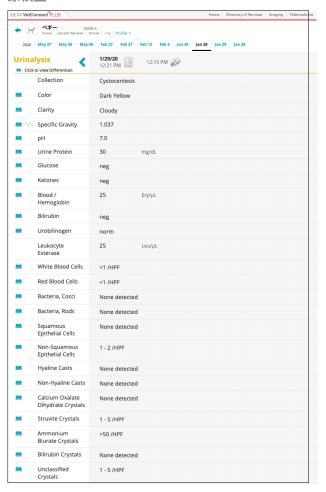
# 追加検査プラン

尿酸アンモニウム結晶と蛋白尿の精査のために、尿中蛋白クレアチニン比(UPC)の測定、尿の細菌培養試験と薬剤感受性試験、食前・食後の総胆汁酸の測定を追加検査に加えることにした。

UPCの結果からは、明らかな蛋白尿は確認できず、培養試験も陰性であった。

カタリスト TBA を用いた総胆汁酸測定は、食前・食後ともに著しい 高値を示したことから、肝胆道系疾患が疑われた。

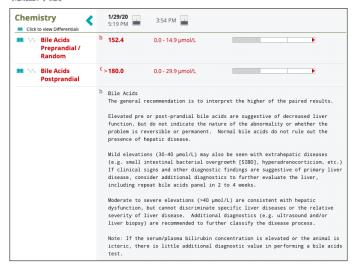
### 尿検査



### 尿の細菌培養試験



### 総胆汁酸



# 診断と経過

総胆汁酸の高値は肝機能障害を示唆するため、専門病院での追加検 査が勧められた。2次病院では、プロサイト Dx および カタリスト One を用いた完全血球計算(CBC)と血液化学検査が実施された。その結 果、MCVの低下と基準値下限境界の血中尿素窒素 (BUN) およびコレ ステロールが観察され、肝機能障害が示唆された。腹部超音波検査で は、小型の肝臓と異常な血管走行が確認され、肝内性の門脈体循環シ ャント (PSS) に一致する所見が得られた。また、膀胱内には複数の結 石を認めた。

数週間後、ペギーは手術を受け、シャント血管周囲にアメロイドコン ストリクターを装着し、徐々にシャント血管を閉鎖することにした。

手術の際に肝生検も同時に行い、病理組織検査では中等度の小動 脈の増生と軽度の空胞変性が認められ、PSSに一致する所見が得ら れた。また、手術時には膀胱から2個の結石を摘出し成分分析をし た結果、尿酸結石であることが確認された。

術後は順調に回復し、予後良好で退院した。

# まとめ

PSSは、犬や猫における最も一般的な肝臓の先天性疾患である」。よ く見られる症状は神経症状であり、肝性脳症の結果として、徘徊や 発作、突然吠え出すといった異常な行動が見られる。ペギーに見ら れたような下部尿路 系の症状は典型的とまでは言えないが、PSS犬 の20-53%に認められる2。

今回見られたCBCと血液化学検査のわずかな異常は、PSSの動物に 通常見られるものであった。小赤血球症はPSS犬の60%以上で見ら れ、はっきりとした機序は不明であるが、鉄隔離によるものと考えら れている³。BUNやコレステロール、アルブミン、グルコースは肝機能 障害によって合成量が低下するため、基準値下限境界~低値とな る。また、軽度~中等度の肝酵素 (ALT、ALKP) の増加がPSS犬ではよ く認められる」。

総胆汁酸の測定は、肝機能を評価するための検査であり、PSS が疑 われる動物に実施される'。PSS で総胆汁酸が高値になる原因は、 再吸収された胆汁酸が短絡血管を通って体循環へ流入することに ある。食前と食後の総胆汁酸を測定することで、ほぼ 100% の感度 で 犬猫の PSS を検出することが可能であると 報告されている<sup>4</sup>。

本症例のように、肝機能障害が示唆されても、症状が非典型的であ ったり、スクリーニング検査でわずかな異常しか見つからない場合 は、総胆汁酸の測定が重要になる。

動物用一般医療機器 血球計数装置 IDEXX プロサイトDx 動物用一般医療機器 臨床化学分析装置 IDEXX カタリストOne



<sup>1.</sup> Weisse C, Berent AC, Hepatic vascular anomalies. In: Ettinger SJ, Feldman EC, Côté E, eds. Textbook of Veterinary Internal Medicine: Diseases of the Dog and the Cat. 8th ed. St Louis, MO: Elsevier; 2017:1639–1658.

<sup>2.</sup>Berent A, Weisse C. Portosystemic shunts and portal venous hypoplasia. Stand Care Emerg Crit Care Med. 2007; 9(3). 3.Simpson KW, Meyer DJ, Boswood A, White RN, Maskell IE. Iron status and erythrocyte volume in dogs with congenital portosystemic vascular anomalies. J Vet Intern Med. 1997;11(1):14–19. doi:10.1111/j.1939–1676.1997.tb00067.x 4.Winkler JT, Bohling MW, Tillson DM, Wright JC, Ballagas AJ. Portosystemic shunts: diagnosis, prognosis, and treatment

of 64 cases (1993-2001). J Am Anim Hosp Assoc. 2003;39(2):169-185. doi:10.5326/0390169